

都道府県 番号 8	学校名 茨城県立茎崎高等学校	課程 定時制	学科 普通科	指定期間 26～28
--------------	-------------------	-----------	-----------	---------------

平成 27 年度 個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育 研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

発達障害等による特別な教育的支援を必要とする生徒に対する支援の充実を図るため、自立活動を取り入れた「特別の教育課程」の編成に関する研究を行うとともに、教科等における個々の能力・才能を伸ばす指導に関する研究を行う。

2 研究の概要

生徒の社会的・職業的自立に向けた支援の充実を図るため、特別な支援の必要な生徒を含めた全ての生徒に対する校内支援体制の構築及び、自立活動の内容を取り入れた特別の教育課程の編成による高等学校における指導の在り方について実践的研究を行う。

具体的には、多様化する生徒の実態に応じて、外部専門家等を活用した得意分野を伸ばす指導を行うとともに、関係機関との連携、特別支援学校のセンター的機能の活用等を通して、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、特別支援教育の視点を踏まえた一斉授業の在り方、学習教材の工夫、学習環境の整備、評価の方法等について研究する。

また、自立活動アドバイザーを配置し、学校設定科目の充実及び教科の学び直しやソーシャルスキルトレーニング等を取り入れた特別の教育課程を編成することで、少人数指導の工夫と改善を図り、合理的配慮の観点に基づく個に応じた支援の在り方について研究開発を行う。

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究開始時の状況と研究の目的

本校には、発達障害等により学習や生活に困難やつまずきを抱える生徒、中学校までに不登校やいじめを経験している生徒等が多数在籍している。また、中学校までの学習が身に付いていない生徒が多数いるため、生徒の実態に応じて習熟度別授業を実施している。

こうした現状を踏まえ、特別な支援を必要とする生徒の調査を行ったところ、中学校時代に特別支援学級に在籍していた生徒が1割程度入学しており、全校生徒数のおよそ半数近くが学習上の課題を抱えていることがわかった。例えば、板書をノートに書き写せない等、発達障害の特性を示す生徒も在籍している。このような現状から、発達障害やその疑いがある生徒、人間関係がうまく構築できない生徒等に対して、より個に応じた支援を行う必要性がある。

そこで、本校で現在行っている学校設定科目「ライフスキルを高める心理学」やキャンパスエイド（心理学を学ぶ大学院生ボランティア）の活用等に加えて、自立活動の内容を含む特別の教育課程を編成すること等により、学習上又は特に人間関係形成を含む生活上の課題を改善・克服できるよう支援体制を構築していきたい。具体的には、対人関係や社会的技能に関わる課題改善を目的とした「人間関係の形成」に関する授業を設定し、個々の生徒の状態に応じたソーシャルスキルトレーニング等による自立活動を展開する。本事業2年次に当たる平成27年度入学生からは、特別な教育課程として「自立活動」を「ライフスキルトレーニングA」として選択科目に設定する。また、本事業3年次には同じく選択科目「ライフスキルトレーニングB」を設け、生徒が2年次になってからも選択可能な形にする。さらに、「国語総合」、「数学I」、「コミュニケーション英語I」の中でそれぞれ“

ファーストステップ国語”，“ファーストステップ数学”，“ファーストステップ英語”という時間を設け，教科の学習内容に自立活動を相互に関連づけた授業を行うことで，生徒が学びに対する自信や自己肯定感を回復できる取組とする。

その他学校生活全般に渡り，自立活動アドバイザーや特別支援教育コーディネーターのアドバイスを受けながら一斉授業の改善を行い，理解しやすい授業づくりを実施する。

(2) 研究仮説

生徒の障害の状態等に応じて学習上・生活上の困難の改善・克服を図るために，自立活動の「人間関係の形成」等の内容を含む特別の教育課程を編成し，個々の能力・才能を伸ばす指導や教科・科目の補充指導等，個に応じた支援の在り方や学習指導の方法を探求して，全ての生徒が安心して楽しく学ぶ環境を整えれば，自立と社会参加が可能になるであろう。

(3) 教育課程の特例

教育課程の特例の内容	指導内容	授業時間数・単位数等
「ライフスキルトレーニングA」	自立活動の指導内容6区分に基づき，生徒の実態に応じて指導した。 「場面を考えよう」「清掃をしよう」「自分のできること・苦手なことに気付こう」「花壇にひまわりを植える」「夏休みの報告」「LED栽培および観察」「野菜サラダづくり」「自分から行動しよう」等の単元で計画的に指導した。	「ライフスキルトレーニングA」：1年次 2単位（週2時間）

(4) 個々の能力・才能を伸ばす指導（現行学習指導要領における一斉指導の改善工夫等）

「国語総合」，「数学Ⅰ」，「コミュニケーション英語Ⅰ」で少人数や習熟度別，ティーム・ティーチングの授業を展開する中で，支援の必要な生徒に配慮した指導を実施している。平成27年度からは，タブレット端末を活用した授業の導入を図り，個々の能力・特性に応じた指導法についての研究を推進している。それに伴い，校内にICT活用委員会を設置し，全ての教科・科目，さらには特別活動での活用も範疇に入れつつ授業方法やその形態，活用方法について研究を進めている。

(5) 研究成果の評価方法

研究のねらいに即し生徒の実態に応じて事業が進められているか，生徒，保護者，教員に対しアンケート調査を年2回実施する。また，学校生活アンケートや生徒理解チェックリスト，行動の記録，学習記録を基に，設定した目標や指導内容等の妥当性について分析評価する。

4 研究の経過等

(1) 教育課程の内容

三部制定時制単位制の利点を生かして、生徒の興味・関心に応じた多様な選択科目を含めた教育課程を編成している。

学校教育法施行規則第 85 条に基づき設定する障害に応じた指導「ライフスキルトレーニング A」では、自立活動の「人間関係の形成」に関する内容についてソーシャルスキルトレーニング等を中心に授業を行う。生活の様々な場面を想定しロールプレイ等を通して他者とのかかわりや集団への参加について指導する。

評価については、生徒の実態に応じて設定した目標に照らして、例えば「自立活動チェックシート」等を活用した形成的評価を重視する。

(2) 全課程の修了認定の要件

- ① 全課程終了の認定は、以下のすべての要件を満たした者について、校長が行う。
 - ア 生徒が過去に在学した高等学校の在籍期間を含め、3年以上在籍すること。
 - イ 本校に原則として1年以上在籍すること。
 - ウ 各教科・科目及び総合的な学習の時間について、74単位以上の修得が認定されること。ただし、本校における開設科目を10単位以上含むものとする。
 - エ 上記ウには、学校設定科目及び教科「総合」の科目並びに「自立活動」の領域に係る修得単位数を合わせて20単位まで加えることができる。
 - オ 本校が定めた必履修教科・科目の「履修」がすべて認定され、総合的な学習の時間が3単位以上認定されること。
 - カ 特別活動の成果がその目標からみて満足できると認められること。
 - キ 生徒が過去に在学した高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において修得した単位は、上記ウの単位数のうちに加えることができる。
 - ク 本校入学以前の既修得単位については、本人からの「単位修得証明書」添付の所定様式による認定申請により、原則としてこれを認める。
 - ケ 学校外学修による認定単位も加えることができる。
- ② 全課程終了認定等の特例
 - ア 校長は、特例の必要があり、かつ、教育上支障がないときには、年度の途中においても、学期の区分に従い、各年次の課程の修了及び卒業を認めることができる。

(3) 研究の経過

実施年次	実施時期	研究計画・実施内容
第1年次 (平成26年度)	平成26年 4月	・平成26年度入学生対象入学前適応相談、履修相談 ・特別な支援を必要とする生徒の実態調査 ・中学校訪問 ・教室環境整備
	5月	・個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成 ・第1回校内研究委員会、第2回校内研究委員会 ・視察研修（県立つくば特別支援学校） ・ICTを活用した授業改善のための研修会

6月	<ul style="list-style-type: none"> ・履修相談 ・自立活動講演会参加（県立つくば特別支援学校） ・ICT利活用教育関連研修会（New Education Expo 2014） ・第1回運営指導委員会
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート ・生徒理解チェックリスト（1年次生全員） ・校内研修会（自立活動の指導について） ・第3回校内研究委員会
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校との共同研修会（「コミュニケーション力を育む」） ・「」（「自立活動の授業づくり」） ・校内ICT研修会 ・「授業に役立つICT活用研修講座」参加 ・適応相談教室・児童相談所等訪問 （つくば市，土浦市，牛久市，取手市，龍ヶ崎市，石岡市， かすみがうら市，つくばみらい市，守谷市，常総市，阿見町， 美浦村）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回校内研究委員会，第5回校内研究委員会 ・県立つくば特別支援学校との交流 ・「学校教育におけるICT活用研究会」参加 ・先進校視察 （神奈川県立城山高等学校：授業改善，ICT利活用教育関連）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解チェックリスト（1年次生：担任抽出生徒対象） ・履修相談 ・先進校視察 （神奈川県立綾瀬西高等学校，東京都立足立東高等学校） ・第6回校内研究委員会 ・第1回校内ICT活用委員会，第2回校内ICT活用委員会
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解チェックリスト実施（2，3年次生全員） ・県立つくば特別支援学校との交流 ・「人間関係づくり研修会」 ・県南地区難聴・言語障害特別支援教育担当者研修会参加 ・ICT利活用教育関連研修会（eスクール・ステップアップキャンプ）参加 ・先進校視察 （神奈川県立田奈高等学校，つくば市立並木中学校）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校との共同研修会 ・県立つくば特別支援学校との交流（作業体験及び共同学習） ・先進校視察 （大阪府立岬高等学校，大阪府立柴島高等学校，東京都立秋留台高等学校， 長野県立箕輪進修高等学校） ・生徒，保護者，教員へのアンケート調査 ・第7回校内研究委員会 ・第3回校ICT活用委員会
平成27年	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校との共同研修会（ICT利活用関連）

	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談研修会 ・第8回校内研究委員会 ・第4回校内ICT活用委員会
	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害等教育セミナー ・履修相談 ・第3回運営指導委員会 ・第9回校内研究委員会 ・特別の教育課程編成
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・第10回校内研究委員会 ・第6回校内ICT活用委員会 ・平成27年度入学生対象「高校生活相談」(入学前適応相談), 履修相談 ・中学校訪問 ・希望生徒, 保護者への説明
第2年次 (平成27年度)	平成27年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の教育課程全体実施 ・「よりよい高校生活のために」(生徒実態調査) ・保護者, 教員へのアンケート調査 ・中学校訪問 ・生徒個人カルテ作成 ・個別の教育支援計画, 個別の指導計画作成 ・第11回校内研究委員会
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・「フレックスセミナー」参加(県立結城第二高等学校)
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・履修相談 ・第12回校内研究委員会 ・第4回運営指導委員会 ・「発達障害のある児童生徒への指導」に関する研修会参加 ・Education Expo 2015 参加(ICT活用関連) ・「学校におけるICT活用研究会」参加
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート実施 ・生徒理解チェックリスト ・教育相談研修会 ・講演会「発達障害・LD読字障害を知ろう」参加(県立友部特別支援学校)
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活アンケート」に係る研修会 ・県立つくば特別支援学校公開講座参加 「発達障害のある子への対応」 「通常学級におけるユニバーサルデザイン」 「発達障害のある方とのコミュニケーション」 ・「高校教員ICTセミナー」参加 ・適応教室・児童相談所等訪問 ・先進校視察(兵庫県立西宮香風高等学校)
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解チェックリスト ・履修相談 ・県立つくば特別支援学校との交流(作業体験及び共同学習)

		<ul style="list-style-type: none"> ・「ハイレベルフォーラムinつくば」参加（筑波大学） ・第13回校内研究委員会 ・第5回運営指導委員会 ・先進校視察（東京都立稲ヶ丘高等学校）
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解チェックリスト ・履修相談 ・県立つくば特別支援学校との交流（文化祭の手伝い）
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒，保護者，教員へのアンケート調査 ・県立つくば特別支援学校との交流（作業体験及び共同学習） ・適応教室・児童相談所等訪問
	平成28年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害に関する研修会
	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・履修相談 ・清掃作業トレーニング ・発達障害者就労支援者向け講習会参加 ・発達障害者就労支援者向け交流会（「発達障害者就労への道筋」）参加 ・第14回校内研究委員会 ・第6回運営指導委員会 ・個別の教育支援計画，個別の指導計画の見直し
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援に関する研修会 ・第15回校内研究委員会 ・平成28年度入学生対象「高校生活相談」（入学前適応相談），履修相談 ・中学校訪問 ・個別の教育支援計画，個別の指導計画作成
第3年次 （平成28年度）	平成28年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の教育課程実施 ・「よりよい高校生活のために」（生徒実態調査） ・保護者，教員へのアンケート調査 ・中学校訪問 ・校内研究委員会
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回運営指導委員会 ・発達障害等教育セミナー
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・履修相談
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート ・生徒理解チェックリスト ・大学との連携（個々の能力・才能を伸ばす取組）
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・大学との連携（個々の能力・才能を伸ばす取組） ・特別支援学校との共同研修会 ・発達障害等教育セミナー ・校内研究委員会 ・ケース会議
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・県立つくば特別支援学校との交流
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回運営指導委員会
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解チェックリスト

		<ul style="list-style-type: none"> ・履修相談 ・県立つくば特別支援学校との交流 ・大学との連携（個々の能力・才能を伸ばす取組） ・人間関係づくり研修会 ・校内研究委員会
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表会 ・生徒，保護者，教員へのアンケート調査 ・県立つくば特別支援学校との交流（作業体験及び共同学習） ・特別支援学校との共同研修会
	平成29年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談研修会 ・ケース会議
	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・履修相談 ・第9回運営指導委員会 ・校内研究委員会 ・研究報告書作成

（４）評価に関する取組

実施年次	実施時期	評価計画
第1年次 (平成26年度)	平成26年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・適応相談，中学校訪問での情報集約 ・アンケート調査の分析により課題等を明確化する。
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の方向性・内容等について運営指導委員から助言等を受ける。 ・セミナー開催ごとにアンケートを実施し，研究の目的を振り返る。
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査，チェックリストのデータを担任及び関係職員で分析・検討の上，活用する。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次前期の研究内容等について運営指導委員から助言等を受け後期の研究に生かす。
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストの結果を基に個別支援計画の検討を進める。
	平成27年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・改善した取組を報告し，校内で共有する。 ・アンケート調査の分析により，研究の成果や次年度の課題を明確化する。
	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の成果，課題について運営指導委員から助言を受ける。 ・1年次の研究のまとめと今後の課題を検証する。
第2年次 (平成27年度)	平成27年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・「よりよい高校生活のために」（生徒実態調査）や保護者対象アンケート調査の分析により，生徒や保護者のニーズを明確化，教員の意識の変容を確認する。
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー参加ごとにアンケートを実施し，研究の目的を振り返り今後の研究に生かす。
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査，チェックリストのデータを担任及び関係職員で分析・検討の上，活用する。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の研究内容について，成果と課題を明確化する。
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストの結果分析により，生徒の変容等を把握し，以降の研究に反映させる。
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の分析により，後期の研究に生かす。

	平成28年 1月	・改善した取組を報告し、校内で共有する。
	2月	・アンケート調査の分析により、研究の成果や次年度の課題を明確化する。
	3月	・研究の成果、次年度の課題について、運営指導委員から助言を受ける。
		・2年次の成果と課題を明確にして、3年次の計画を立案する。
第3年次 (平成28年度)	平成28年 4月	・アンケート調査結果の分析により、改めて実態を把握し最終年度の研究に生かす。
	5月	・研究の進捗状況や方向性について運営指導委員から助言を受ける。
	7月	・アンケート調査、チェックリストのデータを担任及び関係職員で分析・検討の上、活用する。
	10月	・研究のまとめに向けて運営指導委員から助言を受ける。
	12月	・アンケート調査結果の分析により、生徒、保護者、教員それぞれの変容を検証する。
	平成29年 2月	・研究のまとめを行い、今後の課題を検証する。

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

ア 対象生徒への効果

- ・「ライフスキルトレーニングA」の授業では、毎回、個人目標や感想を発表する活動を取り入れており、毎時間の経験を通して自己の考えを表現する力が向上している。
- ・当初は授業に対して受動的であったが、後期に入ってから徐々に取組が能動的になり、自ら進んで活動内容についての提案等をする姿が見られるようになった。
- ・授業の中で役割分担や話し合い活動を取り入れたことにより、他者との協力について学ぶことになり、入学時に課題となっていた人間関係の形成やコミュニケーションの点でも徐々に効果が見られるようになった。
- ・「花壇にひまわりを植える」や「LED栽培」などの耕作活動は、周囲から感謝や評価の声を受け、達成感とともに自己肯定感や自己有用感を得ることができ、意欲の向上にも繋がった。
- ・耕作活動や清掃活動などの身体を動かす作業や体験的学習は、生徒も意欲的に取り組む傾向が見られ、自立活動が有効であることがわかった。
- ・対象生徒は特別活動への参加意欲が高まり、それぞれ部活動に入部し、全国定時制通信制高校体育大会への出場や地域でのボランティア活動、学校間交流などで活躍の機会が増えており、さらに授業との相乗効果を生んでいる。

イ 教員への効果

- ・生徒理解に関しては、教員の意識向上が図られ、数年前と比較すると格段に向上が見られる。三部制定時制単位制高校への改編の趣旨についての理解が深まると同時に、本事業による職員研修会を重ねることで、支援や配慮を必要とする生徒について教員間の共通理解が一層進んでいる。
- ・「生徒理解チェックリスト」や生徒の“個人カルテ”作成により、個々の生徒についての状況把握がスムーズになり、校内における様々な指導に反映されるようになった。
- ・ICT活用の推進により、多くの教員がタブレット端末の活用等に積極的に取り組み、創意工夫して授業に取り入れるようになった。さらに、ICT活用の有無に関わらず、教員相互で自主的に授業改善に取り組む気運の高まりが見られるようになった。

ウ 保護者等への効果

(保護者)

- ・個々の生徒の特性に応じた細やかな指導により、中学時代に不登校だった生徒が高校入学後は登校できるようになるなど、改善傾向が見られるようになった。これらの生徒の変容によって保護者の評価も高まり、学校評価アンケートでは「茎崎高校に入学させて良かった」との回答は80%を超えている。

(他の生徒)

- ・学習障害や対人関係に課題がある生徒が多く在籍しているため、本事業を契機とする授業研究への取組は生徒全体に有効に作用している。中でもICTの活用は、生徒の興味・関心を高め、学習面のみならず特別活動など学校生活の様々な場面で生徒の意欲向上に効果をもたらしている。
- ・県立つくば特別支援学校との交流は、他者とのかかわりを不得手としていた生徒自身から継続実施を望む声が出る等、人間関係の形成やコミュニケーションの点で効果を上げている。

(その他(地域の理解等))

- ・三部制定時制単位制普通科高校についての理解が徐々に進む中、本事業の取組による効果が生徒の普段の様子に表れつつあることで、本校の目指す学校像に関心を示す地域住民や近隣中学校の保護者が増加している。
- ・対象生徒を含む様々な課題を抱える生徒が多数所属しているボランティア部や三味線部の活動が、高い評価を得るとともに地域にも広く知られるようになり、生徒たちの自己肯定感や自己有用感の向上に効果を生んでいる。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

- ・今年度は特別支援学校の教諭が人事交流により配置され、本事業に大きく貢献している。高等学校で本事業の取組を継続的に展開するためには、教員の特別支援教育に関する専門性の向上は不可欠であると考えます。
- ・対象生徒の選定については、生徒の中学在籍時の実態把握を行った上で、入学前履修相談時に案内等をしたが、保護者の理解及び同意を得る際の配慮や生徒の自尊感情への配慮の方法が大きな課題である。
- ・生徒が高校生活を円滑に送るとともに、卒業後も一社会人として社会に適応していくための支援を検討することも必要である。その対応策として、特別支援学校で行われている“移行支援会議”のような連携体制づくりが、高等学校においても必要と考えられる。